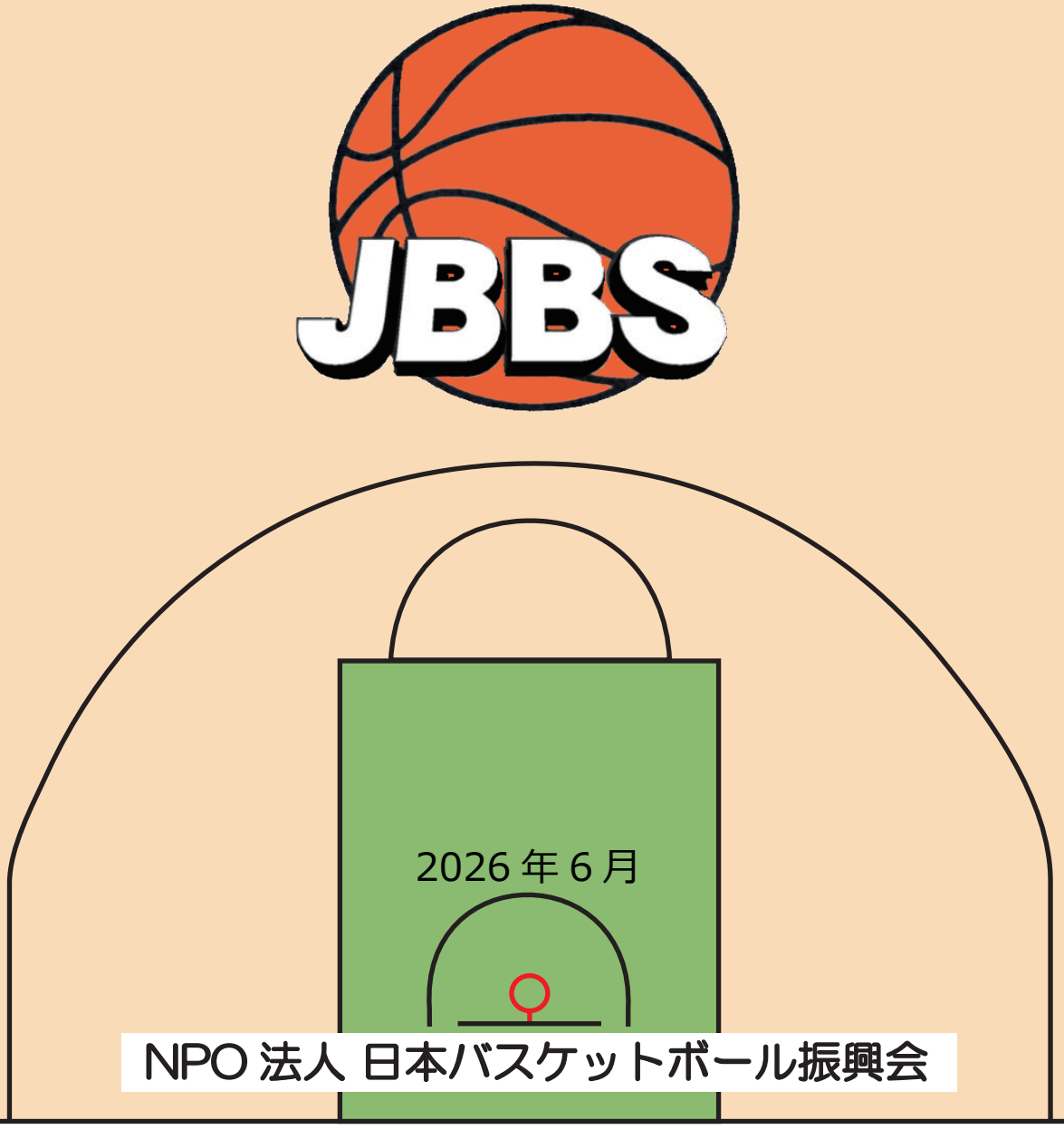
バスケットボールプラザ

Basketball Plaza *No.104*



2026年6月

NPO法人 日本バスケットボール振興会

2026 シニアバスケットボール交歓大会　in　SUMIDA　HIGASHIN

大会の記事は　7～16 ページをご覧ください。



懇親会参加者のみなさん（東武ホテルレバント東京「白雲の間」にて）

シニアバスケットボール女子リーグ戦

リーグ戦の記事は　17～18 ページをご覧ください。



リーグ戦優勝の Lilies の皆さん



お孫さんも参加して得点付け

目　次

○　令和７年度活動報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局　・・・　2
○　令和８年度事業活動計画（令和８年５月起案）　・・・・・事務局　・・・　3
○　令和８年度年間活動計画一覧　・・・・・・・・・・・・・・事務局　・・・　5
○　新入会員紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局　・・・　6
○　2026 シニアバスケットボール交歓大会
　　In SUMIDA HIGASHIN 開催　・・・・・・・・・・・・普及部　・・・　7
○　シニアバスケットボール女子リーグ戦始まる！！　・・・・普及部　・・・　１７
○　第 15回横浜カップ全国ゴールデンシニア
　　福岡大会が開催されました　・・・・・・・・・・・・・普及部　・・・　１９
○　FIBA 女子ワールドカップ 2026 情報　・・・・・・・・・編集部　・・・　２２
　　女子日本代表　本大会出場権獲得（予選会トルコ会場の結果）
○　FIBA ワールドカップ 2027（アジア予選）　・・・・・・編集部　・・・　２６
　　男子日本代表　1 次ラウンドをグループＢで暫定首位
○　最近の我が国バスケットボール界の動向　・・・・・・・・普及部　・・・　２８
○　最近の競技規則について（その２）　・・・・・・・・小澤　正博　・・・　３１
○　「神田バスケットボール資料室」探訪（１）　・・・・・・歴史部　・・・　３３
　　― 資料から見る「先達の足跡」―
○　会員だより　・・・・・・三角　恵美子、佐川　恵子、阿部　真樹　・・・　３５
　　藤沢市レディースバスケットボール連盟
○　会員だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・須田　武志　・・・　３７
　　嘘のような、本当にあった話（その 15～）
○　事務局だより　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・事務局　・・・　４６
○　プラザ　こぼればなし　・・・・・・・・・・・・・・・・・・　・・・　４７

令和７年度活動報告

［事務局］

2025(令和７)年４月～2026（令和８）年３月

４月23～24日	シニアバスケットボール交歓大会 in 白子開催 各チームの代表者にシニア大会のあり方について意見交換を行う
５月13日	振興会のあり方検討委員会開催（会長、副会長、理事長、副理事長など出席）
５月18日	「京都府バスケットボール協会設立100周年記念式典」出席
５月27日	振興会のあり方検討委員会開催（会長、副会長、理事長、副理事長など出席）
６月17日	「令和６年度事業活動・事業会計」　監査
６月20日	理事会開催（「令和７年度通常総会資料」（案）の審議・承認） 「令和７年度通常総会資料」（案)、「賛否回答用はがき」を会員に発送
７月１日	「バスケットボールプラザNO.102」発行
７月11日	令和７年度通常総会・懇親会開催（会場：コンフォート水道橋）
８月12～18日	事務所夏季休暇
９月27日	第31回北海道ゴールデンシニアバスケットボール交歓大会（札幌大会）視察
９月27～28日	第３回エール杯スーパーゴールデン・プラチナシニアバスケットボール岡山大会参加、会員拡大活動実施
10月21日	東京都バスケットボール協会（橋本会長）への講習会開催の依頼
10月29～30日	第16回シニアバスケットボール交歓大会2025 in 代々木　開催
11月10日	神奈川県バスケットボール協会への講習会開催の依頼、　半田会長、U-12牧野部会長、U-15五十嵐部会長と面談（諸山、小澤、蒲田の３名出席）
11月20日	秋季講演会（講師：谷釜尋徳東洋大学法学部教授）および懇親会開催
11月29日	横浜文化体育館で開催の「B2横浜エクセレンス」の試合の前座として70歳以上の男子シニアチームのエキシビジョンマッチを行う
12月６日	関東ゴールデンシニアバスケットボール連盟主催トーナメント大会にシニア女子チーム４チーム参加（会場：藤沢市秩父宮記念体育館）
12月12日	理事懇談会開催
12月26日	「バスットボールプラザNO.103」発行
12月30日 ～１月６日	事務所年末年始休暇
１月20日	振興会主催シニア交歓大会に関する打合せ実施 前年12月12日開催理事懇談会の議事録確認、シニア交歓大会の打合せ実施
１月27日	ひがしん交歓大会、神奈川シニア女子リーグ戦、役員改選、部門別職務分掌などについて打合せ実施
２月13日	ひがしん交歓大会進行に関する打合せ実施
２月25日	ひがしん交歓大会進行に関する打合せ実施
３月23日	ひがしん交歓大会進行に関する打合せ実施

令和８年度事業活動計画（令和８年５月起案）

［事務局］

１．日本バスケットボール協会への協力と提言
２．バスケットボール競技団体への協力・支援
３．日本のバスケットボールの歴史の調査研究と資料の収集
４．組織の充実と財政の確立
５．会員相互の交流を図る

<table>
<tr><th></th><th>事業内容</th><th>具体的内容</th><th>備　考</th></tr>
<tr><td>編集</td><td>１．会報「バスケットボールプラザ」の発行</td><td>(1)発行時期と主な掲載記事
<table>
<tr><th>No.</th><th>発行時期</th><th>主な掲載記事</th></tr>
<tr><td>104</td><td>令和８年
６月</td><td>定期総会関連資料、ひがしん大会、最近の動向、「神田バスケットボール資料室」など</td></tr>
<tr><td>105</td><td>令和８年
12 月</td><td>「先人の軌跡」「神田バスケットボール資料室」、代々木大会報告「高校籠球ふるさと記」（東京都編）など</td></tr>
<tr><td>106</td><td>令和９年
３月</td><td>「全国各地のシニア大会の情報」「最近の動向」など</td></tr>
</table></td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>２．HP の活用</td><td>大会報告とバスケットボールプラザ掲載など HP の活用</td><td></td></tr>
<tr><td></td><td>３．広告掲載社の開拓</td><td>広告掲載社の維持・開拓</td><td></td></tr>
</table>

	事業内容	具体的内容	備　　考
普及	１．シニア大会の開催と拡大 ２．ミニ・中学生育成活動 ３．審判育成	(1)O60 女子リーグ戦 4/5　横浜市西スポーツセンター 5/16 エスフォルタ八王子 5/23 藤沢秋葉台体育館 (2)墨田区ひがしんアリーナ大会 4/22・23 参加：男子 60 歳以上・70 歳以上 女子 60 歳以上 (3)第 17 回シニアバスケットボール交歓大会 代々木第二体育館 10/28・29 日 参加：男子 60 歳以上、女子 50 歳以上 (4)女子リーグ参加４チーム（２試合） 12/5 関東ゴールデンシニアトーナメント 藤沢市立体育館 (5)中学生初心者向けクリニック 7/20　世田谷学園体育館 (6)関東地域のミニ・中学生チームへのクリニック 関東ゴールデンシニア連盟・女子チームなどと連携し、審判のレベルアップを図る。	
歴史	１．歴史的データの収集と整理	(1)日本バスケットボールの歴史的資料のアウトプットの具体的方法を検討 (2)神田バスケットボール資料室の資料の公開と閲覧の実施 (3)日本バスケットボール 100 年の歴史的資料の整理と JBA との協力	
事務局	１．振興会活動の運営の支援と効率化を計る	(1)理事会、総会、講演会等の事務連絡及び振興会の活動の円滑化を図る (2)「神田バスケットボール資料室」の充実に努力する。 (3)会員数及び賛助会員の維持拡大 (4)地方協会の「プラザ購読一部負担金」増加を計る。 (5)ホームページなどによる情報発信を行う。	

令和８年度　年間活動計画一覧

2026(令和８)年４月～５月末　実施済み

・４月５日　　シニア女子バスケットボール 2026 年度リーグ戦開幕戦（横浜市西スポーツセンター）
・４月８日　　理事会開催　「令和８年度通常総会」準備（資料の確認、役員改選案など）
・４月 21 日　「令和７年度　事業活動・事業会計」監査
・４月 22～23 日　2026 シニアバスケットボール交歓大会 in SUMIDA HIGASHIN 開催

・５月 12 日　ひがしん交歓大会振り返り会実施、振興会 HP 改定打合せ
・５月 16 日　シニア女子バスケットボール 2026 年度女子リーグ２戦目（エスフォルタアリーナ八王子）
・５月 19 日　「令和８年度通常総会資料」、賛否回答はがき、など発送
・５月 23 日　シニア女子バスケットボール 2026 年度女子リーグ最終戦（秋葉台文化体育館）

2026 年６月以降実施決定の主な予定（５月末時点）

・６月 24 日「令和８年度通常総会および懇親会」開催（会場：コンフォート水道橋）
・６月下旬　　プラザ 104 号発行
・７月 20 日　中学生初心者向けクリニック（世田谷）開催（会場：世田谷学園）

・10 月 28～29 日　　シニアバスケット交歓大会 In YOYOGI
・11 月　　秋季講演会・懇親会
・12 月５日　シニア女子交歓大会開催（女子リーグ戦参加４チームによる２試合を実施予定）
・12 月下旬　プラザ 105 号発行

・2027 年３月下旬　プラザ 106 号発行

（参考）他団体主催の主な全国的規模の大会の日程

○エール杯（岡山）	2026 年９月 12 日～13 日
○北海道ゴールデンシニア交歓大会	2026 年９月 26 日
○八幡カップ	2026 年 11 月 13 日～15 日
○関東ゴールデンシニア諸山杯トーナメント	2026 年 12 月４日～５日
○久留米 HOOPREX カップ	2027 年２月 25 日～28 日

新入会員紹介

［事務局］

□ 2026 年３月以降入会

氏　　名	ふりがな	入会年月	紹介者他
阿部　真樹　　さん	あべ　まき	2026 年　３月	諸山文彦さん
三角　恵美子　　さん	みすみ　えみこ	2026 年　３月	諸山文彦さん
佐川　恵子　　さん	さがわ　けいこ	2026 年　３月	諸山文彦さん
阿部　武美　　さん	あべ　たけみ	2026 年　３月	芳村美奈子さん
鹿島　直美　　さん	かしま　なおみ	2026 年　４月	鈴木慎一郎さん
佐藤　圭子　　さん	さとう　けいこ	2026 年　４月	芳村美奈子さん
山野　明　　さん	やまの　あきら	2026 年　４月	田中三夫さん
広重　功一　　さん	ひろしげ　こういち	2026 年　４月	田中三夫さん
大野　一美　　さん	おおの　かずみ	2026 年　５月	諸山文彦さん
筒井　志乃　　さん	つつい　しの	2026 年　５月	諸山文彦さん
石井　昌子　　さん	いしい　まさこ	2026 年　５月	諸山文彦さん

2026 シニアバスケットボール交歓大会
In SUMIDA HIGASHIN　開催

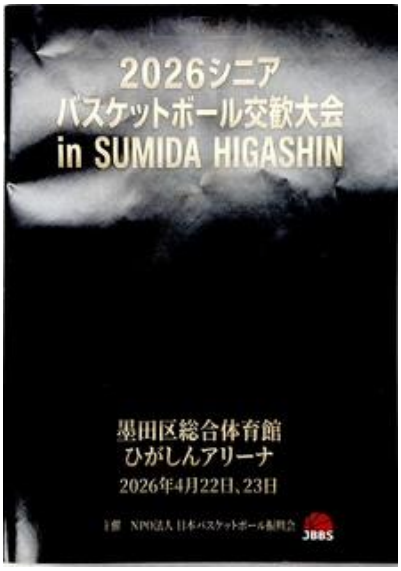
［普及部］

振興会主催のシニアバスケットボール交歓大会を、2026 年４月 22 日（水）、23 日（木）の２日間にわたり、ひがしんアリーナ（墨田区総合体育館）で開催したので報告します。

振興会では今まで、10 月の「代々木大会（主に 60 歳以上の男子対象）」と、４月の「白子大会（70 歳以上男子対象）」の２大会を主催してきましたが、いずれも主にシニア男子中心の大会であり、一方、近年、シニア女子の大会参加希望の声が高まっていることを受け、昨年秋からこの大会を企画、準備してきたものです。

今大会には、全国から「60 歳以上男子」２チーム、「60 歳以上女子」６チーム、「70 歳以上男子」10 チームの計 18 チームが参加し、２日間にわたり熱戦が繰り広げられました。

また、初日の夜には、体育館に近い「東武ホテルレバント東京」において、100 人近い選手・大会関係者の参加を得て懇親会を開催し、互いに交流を深めることができました。



大会パンフレット

本大会に関するアンケートを現在集計ですが、70 歳以上男子の大会、60 歳以上女子の大会がまだ少ない中、本大会が企画され参加できたことを喜んでいただけた声が多く寄せられているのはうれしい限りです。

ただし、一部、懇親会に対するご要望（参加費、料理の量など）もいただいていること、また、土曜、日曜日での体育館確保ができず、平日の開催になったこともあり、「60 歳以上男子」チームの参加が少なかったことなど、今後、同様の大会を企画・開催するうえでの課題も明らかになりました。

＜参加チーム＞

■男子 60 歳以上（２チーム）

チーム名	所在地	チーム紹介
セブンブラザーズ	東京都	毎年、真夏の暑い頃に持ち回りで対抗戦を行っていた旧国立七大学のバスケットボール部の仲間が集まってできたチーム。創部 12 年を過ぎました。
レディーバード	東京都	1972 年に結成され、来年で 55 年を迎えるチームです。チーム名の由来は「点取虫」から「テントウムシ」、英語で「レディーバード」という具合だそうです。主に港区、中野区、墨田区等で週 1 回平日の夜に集まって練習をしており、シニア層中心に 20 歳から 70 歳代まで、老若男女入り乱れて楽しく PLAY しています。今大会は初めて参加させていただきます。よろしくお願いします。



淡色：セブンブラザーズ　　濃色：レディーバード

■女子 60 歳以上（６チーム）

以下、対戦相手の２チームずつ紹介します。（順不同）

チーム名	所在地	チーム紹介
緑地クラブ	東京都	チーム結成から 44 年、当時は若かったメンバーも、今やアラ古希だのアラ還だのと言われる歳になりました。試合に出られるチャンスは多くありませんが、週一回の練習で顔を合わせ、O60 の大会にでるのを励みに、バスケットを続けています。もちろん、アフターバスケットの楽しさもやめられない理由となっています！
ジョニーズ	神奈川県	昨年 10 月に結成 50 周年を迎えた、横浜市戸塚を拠点に活動するジョニーズです。チームには 40 代から 70 代までの現役プレーヤーが在籍し、今年はさらなる飛躍を目指して日々バスケットボールを楽しんでいます。今回の交歓大会には、バスケットボールを愛してやまない平均年齢 67 歳のメンバーで参加させていただきます。多くのチームの皆さんと交流できることを楽しみにしています。



淡色：緑地クラブ　　濃色：ジョニーズ

チーム名	所在地	チーム紹介
NBC	東京都	若かりし頃、Nice「すてき」な Body「からだ」の Club「なかま」として NBC と名付けました。歳を重ねた今も、スポーツマンらしい素敵な身体は健在です！！Body が Buddy「仲間・相棒」と相まって、更にチームワークが深まりました。皆様の心に届く笑顔とチームワークで、Best を尽くし愛する Basket を楽しみたいと思います。
Mix Dreams	東京都	皆様、こんにちは Mix Dreams です！ 今回はこの大会のために、神戸、名古屋、東京、神奈川からメンバーを募りチームを結成いたしました。当日初顔合わせの Mix チームですがバスケを愛する気持ちは皆同じ、心をひとつにして頑張ります！！　１、２、３ファイト！！



淡色：NBC　　濃色：Mix Dreams

チーム名	所在地	チーム紹介
松戸レディス	千葉県	創部 48 年、松戸市で活動している松戸レディスです。週に 1 回、2 時間の練習をしています。55 歳から 82 歳まで、年齢を考慮して怪我をしないようにストレッチを念入りにしています。錦糸町の試合を楽しみにしています。
ベアーズ･アイ	東京都	練習後の熱い反省会も欠かせない、渋谷区を拠点に練習している明るく元気なチームです。 どうぞよろしくお願いいたします。



淡色：松戸レディス　　濃色：ベアーズ・アイ

■男子 70 歳以上（10 チーム）

以下、対戦相手の２チームずつ紹介します。（順不同）

チーム名	所在地	チーム紹介
ブラックパンサー	山梨県	世界遺産富士山の麓の山梨県富士吉田市に拠点を持ち、数々のシニア大会に参加しております。白子大会より皆さんには顔なじみの方も多く、大変、楽しみにしております。
STARS OF STARS（SOS）	東京都	2010 年に結成した SOS です。今では 20 名近いメンバーが週末に集まり、基本プレイを中心にそれぞれが自分磨きに励んでいます。



淡色：ブラックパンサー　　濃色：STARS OF STARS

チーム名	所在地	チーム紹介
シニア ギャロップス	大阪府	70 歳を超えても、週に一回はバスケットボールを楽しくプレイしています。思うように動かせなくなってきていますが、多くのバスケットボール馬鹿と試合できる事を楽しみにしています。 怪我の無いように試合を楽しみましょう！
せんべーず ゴールデン	埼玉県	シニア大会に参加してから、35 年、今年もみんなと参加します。 全国のチームと試合、懇親と楽しみにしています。



淡色：シニアギャロップス　　濃色：せんべーずゴールデン

チーム名	所在地	チーム紹介
COKI-COKI	千葉県	我がチームは仲良く楽しくバスケやりまーす！！
CELIACS 酒飲み仲間	岡山県他	今年も少数ごちゃまぜチームで参加します。 全力発揮で楽しみます。



淡色：COKI-COKI　　濃色：CELIACS 酒飲み仲間

チーム名	所在地	チーム紹介
岩手マスターズ	岩手県	岩手県内から集まっていつまでも若いつもりでバスケットボールを楽しんでいる年寄りのチームです。今回の登録選手は 60 歳以上の会員約 40 名の中から 70 歳以上の選手です。 大会では参加者の皆さんと交流を深めながらケガをしないで元気で家に戻ること よろしくお願いします。
Tigre Azzurro （ティグレアッズーロ）	東京都	世田谷区を中心に活動しています。 オーバー40 からスタートし、気づいたら 70 を超え、生き残ったメンバーで参加します。 気持ちは昔と変わりませんが「心・技・体」の、「技」と「体」がついてきません。 怪我が無いように全国のバスケ好きの皆さんと交流できることを楽しみにしています。



淡色：岩手マスターズ　　濃色：Tigre Azzurro

チーム名	所在地	チーム紹介
横浜ビー・ シーガルズ	神奈川県	横浜カップは 15 回福岡大会で終了いたしました。 ご参加、ご協力ありがとうございました。 チームには第 1 回大会からの参加者が３名います。 今後も健康第一に大会に参加していきたいと思います。
富士山静岡 フリーダム	静岡県 愛知県	白子カップでは、当初から「富士山静岡」（静岡県）と「フリーダム」（愛知県）の 70 歳以上が合同チームとして参加してきました。元々、両チームの付き合いの歴史は長く、合同練習はなくともいつも仲良く和気あいあいで試合に臨んでいます。



淡色：横浜ビー・シーガルズ　　濃色：富士山静岡フリーダム

シニアバスケットボール女子リーグ戦始まる！！

［普及部］

今年度（2026 年度）から、日本バスケットボール振興会主催で 60 歳以上の女子によるリーグ戦が始まりました。

60 歳以上男子の大会は、横浜カップや八幡カップ、エール杯などの全国大会を始め、関東エリアでは関東ゴールデンシニア連盟のリーグ戦が既に長らく開催されてきています。しかしながら、女子の 60 歳以上の都道府県を跨ぐ横断的な大会は現状少なく、日本バスケットボール振興会としても生涯スポーツとしてのバスケットボールを推進する立場から是非実現したいと考え、ついに今年度から開催に至りました。

記念すべき最初の大会の参加チームは以下の４チーム

- MDT Dreams
- Entrambi（エントランビ）
- Lilies
- 藤沢レディース

主に、地域密着で相互に連携のあった神奈川県に拠点を置くチームが集まった形になりましたが、参加された選手の皆様は、町田や相模原から川崎、藤沢まで東京や神奈川から幅広く参加いただきました。



MDT Dreams



Entrambi(エントランビ)



Lilies



藤沢レディース

大会は、４月５日（日）横浜市西スポーツセンター、５月 16 日（土）エスフォルタアリーナ八王子、５月 23 日（土）藤沢市秋葉台文化体育館で開催され、各チーム総当たりで３試合ずつ戦いました。各チームともに、試合前のアップの段階からチームワークよろしく声出しも行われ、試合中も明るく楽しそうで、男子の試合とはまた違った雰囲気での大会になりました。

帯同審判制の採用や慣れない大型電光掲示板の使用など、戸惑うところもあったものと思いますが、幸い大きなトラブルもなく大会は終了しました。

第 1 回大会となる今年度（2026 年度）の結果は、

- 優勝　Lilies
- ２位　MDT Dreams　　Entrambi
- ４位　藤沢レディース

ということになり、最多得点プレイヤーには Lilies 14 番の森ひさ江選手が選ばれました。おめでとうございます。



森ひさ江選手と諸山会長

日本バスケットボール振興会としては、この大会を順次関東エリアに拡大いたしたく、今後とも幅広く呼びかけを行っていきたいと考えています。大会の準備に携わられた各チームの代表者の皆様、関係者の皆様、お疲れ様でした。

以上

第15回横浜カップ全国ゴールデンシニア
福岡大会が開催されました

［普及部］

本年２月 28 日～３月１日の２日間、第 15 回横浜カップ全国ゴールデンシニアバスケットボール福岡大会が久留米市の久留米アリーナで開催されました。北海道から沖縄まで全国から集まった計 36 チームが、ゴールデンシニアの部（男子 60 歳以上、女子 50 歳以上：参加 28 チームをA､Bの2ブロックに分割）とプラチナシニアの部（男子 70 歳以上、女子 60 歳以上：参加８チーム）に分かれ、日頃の練習成果を披露するとともに互いの健闘を称えるといった、いつもながらの真剣で華やかな大会になりました。

ゴールデンシニアの部のＡブロックは昨年準優勝のKoji-Teshi､Ｂブロックは初参加のレディーバードと、共に東京のチームが優勝、プラチナシニアの部は常連の山梨のブラックパンサーが優勝しました。おめでとうございます。

初日の試合後には、恒例の交流会がホテルニュープラザ久留米で約 400 名の選手・関係者の参加を得て盛大に催されました。和太鼓の演奏や地元の高校生達によるダンスの披露などもあり、大変な盛り上がりになりました。

これはひとえに、今回の大会が久留米市バスケットボール協会の共催、福岡市バスケットボール協会や久留米観光コンベンション国際交流協会の後援を得ての開催になったことの表れで、関係者のご尽力や福岡市、久留米市挙げて応援いただいた結果と感じる大会でした。日本バスケットボール振興会も協賛という形で応援いたしました。



体育館入口の歓迎看板



久留米アリーナはサブコートを含めて計４面の大型体育館



約 400 名の参加者による交流会

ただ、交流会の場で最後に発表されましたが、横浜カップの名前を冠した大会は残念ながら今回が最後になるとのことです。大会名誉会長を務められた元日本バスケットボール協会規則審判部長・石田秀敏氏が大会プログラムに寄せたごあいさつの一文の中で横浜カップの歴史について述べられていますので、少し引用しながら紹介させていただきます。

横浜カップの歴史について

横浜カップは、2012 年に横浜市西区スポーツ協会の記念行事としての交歓大会として第１回目が開催されました。当初は１回限りの大会のはずでしたが、来年もやりましょうとの声があがり、第２回が開催され、会場も横浜では皆が知る「ぶんたい」こと横浜文化体育館が使用されました。しかしながら、「ぶんたい」が改修工事を行うことになり、第３回は埼玉県越谷市、第４回は静岡県熱海市、第５回は沖縄県糸満市で横浜カップとして開催されました。

その後は順調に横浜市内での開催に戻ったのですが、コロナのまん延で大会の開催が危ぶまれたとき、「コロナに負けるな」と岡山市に手を挙げていただき、第 10 回、第 11 回と岡山県岡山市で開催され、横浜カップのタスキが繋がれたとのことです。

しかし、その頃から横浜市内での大型体育館の確保が年々難しくなり、第 12 回を今回と同じ久留米市、第 13 回を山梨県富士吉田市、第 14 回を再び岡山市で開催する運びとなりました。この間、一度も途切れること無く横浜カップを続けることができたのですが、やはり横浜の地で始まった横浜カップを横浜の地で続けられないこともあり、横浜カップの名前を冠した大会はこの第 15 回大会をもって終了することになった、とのことです。

この間に参加チーム数も大きく増え、カテゴリーも 60 歳以上だけでなく 70 歳以上のプラチナシニアの部も生まれました。全国規模の大会を 15 年間にわたり継続されてきた大会実行委員会をはじめ関係者の皆様のご努力の賜物です。



横浜カップのこれまでのプログラム（一部）

横浜カップから久留米 HOOPREX カップへ

横浜カップの名前は無くなりますが、全国ゴールデンシニアバスケットボール大会の趣旨は変えず、来年からは「久留米 HOOPREX カップ」として生まれ変わり、この久留米の地で毎年開催されることになります。今回の交流会の場で大会実行委員長の田中三夫氏から HOOPREX カップの団結旗の披露がなされ、今後も横浜カップの意義を継承していくことのお話がありました。

ちなみに第 1 回久留米 HOOPREX カップは、2027 年 2 月 25 日～28 日の間で行われる予定とのことで、日本バスケットボール振興会としても引き続き応援していきたいと考えます。

（池本祐一郎　記）



HOOPREX の旗を披露される田中実行委員長

FIBA 女子ワールドカップ 2026 情報

女子日本代表 本大会出場権獲得 （予選会トルコ会場の結果）

［編集部］

本年９月にドイツで開催される「FIBA 女子ワールドカップカップ 2026」のQT（Qualifying Tournament：シード権取得予選会）は３月 11 日～18 日に開催され、各地域ランク上位の合計 24 チームが４グループに分かれて対戦した。

各グループは、トルコ、フランス、プエルトリコ、中国の４カ所で、それぞれ６チームが対戦し、各グループで成績の上位４チームがワールドカップ本戦に出場できる。

しかし、アジア、ヨーロッパ、アフリカ、アメリカの４地域における各大会での優勝チームは本戦出場権を既に獲得済みであり、これらのチームを含むグループではこのチームを除く上位成績の３チームになる。

各地域での優勝４チームはアジア・オーストリア、ヨーロッパ・ベルギー、アフリカ・ナイジェリア、アメリカ・米国であり、各会場の４位以内に入った。

シード権取得予選会（QT）の結果

４カ所によるシード権取得予選会での成績は下記のとおりである。

各会場の上位４チームが本戦に出場する。

中国会場

順位		勝	負	世R
1	ベルギー	5	0	5
2	中国	4	1	4
3	マリ	2	3	18
4	チェコ	2	3	17
5	ブラジル	2	3	9
6	南スーダン	0	5	42

フランス会場

	勝	負	世R
フランス	5	0	2
ドイツ	4	1	11
韓国	3	2	15
ナイジェリア	2	3	8
フィリピン	1	4	30
コロンビア	0	5	20

プエルトリコ会場

順位		勝	負	世R
1	米国	5	0	1
2	イタリア	4	1	14
3	スペイン	3	2	6
4	プエルトリコ	2	3	13
5	セネガル	1	4	22
6	ニュージーランド	0	5	21

トルコ会場

	勝	負	世R
オーストラリア	5	0	3
ハンガリー	3	2	19
トルコ	2	3	16
日本	2	3	10
カナダ	2	3	7
アルゼンチン	1	4	23

※世Rの数字は FIBA 世界ランキング（2026 年 4 月 1 日時点）

日本チームのトルコ会場予選会における活躍

順位	チーム	勝	負	オーストラリア	ハンガリー	トルコ	日本	カナダ	アルゼンチン
1	オーストラリア	5	0		○ 71 － 58	○ 77 － 74	○ 81 － 71	○ 82 － 76	○ 91 － 65
2	ハンガリー	3	2	● 58 － 71		○ 89 － 74	○ 77 － 65	● 53 － 75	○ 92 － 81
3	トルコ	2	3	● 74 － 77	● 74 － 89		○ 75 － 67	○ 71 － 69	● 55 － 59
4	日本	2	3	● 71 － 81	● 65 － 77	● 67 － 75		○ 67 － 55	○ 83 － 39
5	カナダ	2	3	● 76 － 82	○ 75 － 53	● 69 － 71	● 55 － 67		○ 75 － 41
6	アルゼンチン	1	4	● 65 － 91	● 81 － 92	○ 59 － 55	● 39 － 83	● 41 － 75	

日本は、出だしでハンガリー、オーストラリア、トルコに３連敗し、本戦出場が危なくなったが、代表選手スタッフ一同の決意が実り、残るカナダ、アルゼンチンに連勝して、最終戦のオーストラリアとカナダの対戦結果を待つ状況になった。

この最終戦でカナダが敗れた結果、同一成績の２勝３敗となったトルコ、日本、カナダは相互の対戦成績により順位が決まり、日本がトルコと共に本戦への出場権を獲得した。

日本チームから、#23 山本麻衣 がトルコ会場での“All-Star Five”の一人に選ばれた。

日本チームの登録メンバー

＜ 主なスタッフ ＞

役　職	氏　名	所　　属
ヘッドコーチ	コーリー・ゲインズ	公益財団法人日本バスケットボール協会
アシスタントコーチ	宮田　知己	公益財団法人日本バスケットボール協会

＜「AKATSUKI FIVE」女子日本代表選手＞　　＊所属は2026年3月8日現在

NO	選手名	P	身長 cm	所　　属
2	今野　紀花	SG	179	デンソー アイリス
3	馬瓜　ステファニー	SF	182	CASADEMONT ZARAGOZA
8	髙田　真希	C	185	デンソー アイリス
10	渡嘉敷 来夢	C	193	アイシン ウィングス
13	町田　瑠唯	PG	162	富士通 レッドウェーブ
14	朝比奈　あずさ	PF	185	筑波大学 ４年
23	山本　麻衣	PG	163	トヨタ自動車 アンテロープス
26	田中 こころ	PG	173	ＥＮＥＯＳサンフラワーズ
31	平下　愛佳	SF	178	トヨタ自動車 アンテロープス
37	薮　未奈海	SG	178	デンソー アイリス
52	宮澤 夕貴	PF	183	富士通 レッドウェーブ
75	東藤　なな子	SG	175	トヨタ紡織 サンシャインラビッツ
	平　均		177.9	

PG ポイントガード、SG シューティングガード、SF スモールフォワード、
PF パワーフォワード、C センター

日本チームの戦績

＜第１日　３月 11 日（現地時間）＞

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	24	7	16	18	65
ハンガリー	20	16	23	18	77

日本は、出足よく第１クォーターをリードしたが、第２クォーターでハンガリーが日本のプレーに対応してくると足が止まって得点が１桁に落ち、逆転されたままで挽回できなかった。第２クォーターの失速が惜しまれる。

＜第２日　３月 12 日（現地時間）＞

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
オーストラリア	25	13	20	23	81
日本	18	29	20	4	71

日本は、第３クォーターまで本来のプレーができていた。第４クォーターに入ると動きが鈍り、失速して敗れた。

＜第３日　３月 14 日（現地時間）＞

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	20	21	13	13	67
トルコ	16	19	20	20	75

日本は前半 41-35 とリードしながら、後半はチームとしての良い流れが作れずロースコアに終わり、敗退した。勝利のためには、80 点以上の得点が欲しい。

＜第４日　３月 15 日（現地時間）＞

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
カナダ	21	18	11	12	62
日本	18	21	15	12	66

日本は、前半を同点で折り返すと、後半、身体を張った積極的なプレーで相手を抑え、ロースコアで勝利を獲得した。得点の伸びないことが気にかかる。

＜第５日　３月 18 日（現地時間）＞

	Q1	Q2	Q3	Q4	計
日本	23	17	29	14	83
アルゼンチン	7	9	11	12	39

日本は第１クォーターから大きくリードしてアルゼンチンを圧倒した。しかし、第４クォーターの尻つぼみが気にかかる。今後の課題である。

本戦の出場チームと日程

ワールドカップ本戦はドイツで現地時間 2026 年９月４日から 13 日までドイツ・ベルリンで開催される。

本大会出場チームは各ＱＴ会場の戦績により上記の 16 チームとなり、４月９日（現地時間）のポット抽選により、下記のように予選リーグのグループ編成が決まった。

ＧＡ　グループＡ

ＪＰＮ	日本	10
ＥＳＰ	スペイン	6
ＧＥＲ	ドイツ	11
ＭＬＩ	マリ	18

ＧＢ　グループＢ

ＨＵＮ	ハンガリー	19
ＫＯＲ	韓国	15
ＮＧＲ	ナイジェリア	8
ＦＲＡ	フランス	2

ＧＣ　グループＣ

ＢＥＬ	ベルギー	5
ＡＵＳ	オーストラリア	3
ＰＵＲ	プエルトリコ	13
ＴＵＲ	トルコ	16

ＧＤ　グループＤ

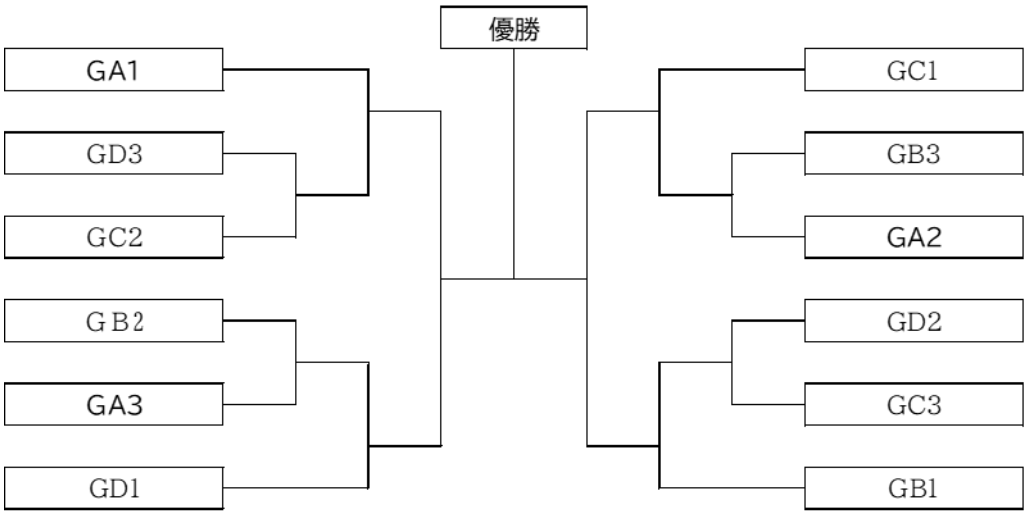
ＵＳＡ	米国	1
ＣＺＥ	チェコ	17
ＩＴＡ	イタリア	14
ＣＨＮ	中国	4

出場の 16 チームは、Ａ～Ｄの４グループそれぞれによるグループステージの予選を３位以上で通過することにより決勝トーナメントに進むことができる。（表内数値は世界ランク）

本戦：ゲームスケジュール（現地時間）（日本チーム関連）

<u>グループステージ ＧＡ ： 日本戦</u>
2026 年９月 ４日（金）18 時 30 分　日本 － マリ
2026 年９月 ６日（日）01 時 00 分　日本 － ドイツ
2026 年９月 ８日（火）00 時 50 分　日本 － スペイン

<u>トーナメントステージ ： ＧＡ チーム戦</u>
2026 年９月 ８日（火）　<u>ＧＡ2 位</u> － ＧＢ3 位 / <u>ＧＡ3 位</u> － ＧＢ2 位
2026 年９月10日（木）　<u>ＧＡ1 位</u> －　（ＧＣ２位×ＧＤ３位の勝者）
2026 年９月12日（土）　準決勝
2026 年９月13日（日）　決勝



以上

FIBA ワールドカップ 2027（アジア予選）

男子日本代表 １次ラウンドをグループＢで暫定首位

［編集部］

2027 年にカタールで開催される「FIBA ワールドカップカップ 2027」のアジア地区におけるQT（Qualifying Tournament：シード権取得予選会）は、「1 次ラウンド」が 2025 年 11 月 27 日から 2026 年３月３日までの「ウインドウ１・２」が終っている。

各グループＡ～Ｄの組成チーム名と現在の成績を下記する。

グループ A		勝	負	世R
1	オーストラリア	4	0	6
2	ニュージーランド	2	2	24
3	フィリピン	2	2	36
4	グアム	0	4	77

グループ B		勝	負	世R
1	日本	3	1	22
2	韓国	2	2	56
3	中國	2	2	26
4	＊ （タイペイ）	1	3	68

グループ C		勝	負	世R
1	ヨルダン	3	0	41
2	イラン	2	1	28
3	シリア	1	2	74
4	イラク	0	3	84

グループ D		勝	負	世R
1	レバノン	2	1	33
2	カタール	2	1	78
3	サウジアラビア	2	1	66
4	インド	0	3	76

＊ チャイニーズ・タイペイ　　世R ： 2026.03.03.時点の FIBA世界ランキング

「1 次ラウンド・ウインドウ３」は６月 29 日から７月６日まで開催される。
各グループで成績の上位３チームがアジア地区の「２次ラウンド」に出場できる。

「２次ラウンド」は、「ウインドウ４～６」を、グループＡ～Ｄの上位各３チームでグループＥ・Ｆを組成し、８月 27 日(木)～2027 年３月１日(月)の間、ホーム・アウェイ方式で対戦する。

グループＥ・Ｆの組成は「1 次ラウンド」の成績に従い、次のようになる。

グループＥ：ＧＡ１位・ＧＣ１位・ＧＡ２位・ＧＣ２位・ＧＡ３位・ＧＣ３位
グループＦ：ＧＢ１位・ＧＤ１位・ＧＢ２位・ＧＤ２位・ＧＢ３位・ＧＤ３位

「２次ラウンド」の結果、アジア地区からは上位７チームが本戦に出場できる。

本戦の 2027 年の FIBA バスケットボール・ワールドカップは、2027 年８月 27 日から９月 12 日までカタールで開催される。

日本チームの対戦相手情報

「１次ラウンド（ウインドウ１・２）」の成績

グループＢ

順位	チーム	勝	負	日本	韓国	中国	チャイニーズタイペイ
B1	日本	3	1		○ 78−72	● 80−87	○ 90−64 ○ 80−73
B2	韓国	2	2	● 72−78		○ 80−76 ○ 90−76	● 65−77
B3	中国	2	2	○ 87−80	● 76−80 ● 76−90		○ 100−93
B4	チャイニーズタイペイ	1	3	● 64−90 ● 73−80	○ 77−65	● 93−100	

「１次ラウンド（ウインドウ３）」の予定

中国 － 日本　　7月3日(金) 20:30　　中国にて
韓国 － 日本　　7月6日(月) 19:30　　韓国にて

日本は、最下位のチャイニーズタイペイに２勝しているので、グループＢで「２次ラウンド」の「グループＦ」に出場できるであろう。

「２次ラウンド」の予定日程

（ウインドウ４）
８月 27 日　・Ｂ１位－Ｄ３位　・Ｂ２位－Ｄ１位　・Ｂ３位－Ｄ２位
８月 31 日　・Ｂ１位－Ｄ２位　・Ｂ２位－Ｄ３位　・Ｂ３位－Ｄ１位

（ウインドウ５）
11 月 26 日　・Ｂ１位－Ｄ１位　・Ｂ２位－Ｄ２位　・Ｂ３位－Ｄ３位
11 月 29 日　・Ｂ１位－Ｄ２位　・Ｂ２位－Ｄ３位　・Ｂ３位－Ｄ１位

（ウインドウ６）
２月 26 日　・Ｂ１位－Ｄ３位　・Ｂ２位－Ｄ１位　・Ｂ３位－Ｄ２位
３月　１日　・Ｂ１位－Ｄ１位　・Ｂ２位－Ｄ２位　・Ｂ３位－Ｄ３位

以上

最近の我が国バスケットボール界の動向

［普及部］

2025 年 12 月～2026 年５月の間に報道された記事を時系列に掲載

2025 年

・11/25、「デフリンピック東京大会」第 11 日バスケットボール日本女子は、決勝でアメリカチームに 65-64 で競り勝ち、初の金メダルを勝ち取った。
・11/28、28 日までに日本で開催されたで「デフリンピック東京大会」は 28 万人を動員、想定数の３倍近い観客数となった。

・12/14、第 77 回全日本大学選手権最終日は、東京・大田区総合体育館で開催。
女子決勝は、東京医療保健大が白鴎大を 76－73 で破り、３年ぶり７度目の優勝を果たした。男子決勝は、早大が 50 年ぶりに決勝に進出したが、白鴎大に 101－83 で敗退、２年ぶり３度目の優勝を果たした。
・12/23、第 78 回全国高校選手権大会「ソフトバンクウインターカップ 2025」は、男女計 110 チームが参加し東京体育館と京王アリーナ TOKYO で開催。
12/28 東京体育館で女子決勝があり、大阪薫英女学院が 66－61 で４年ぶりの優勝を目指した桜花学院に勝ち、初優勝を飾った。
12/29 男子決勝は福岡大大濠が 97－71 で東山を破り２年連続５度目の優勝を果たした。

2026 年

・1/11、第 92 回皇后杯全日本選手権は、東京・国立代々木競技場で決勝があり、ENEOS がデンソーに 76－62 で勝ち、最多 28 度目の優勝を飾った。
大会の最優秀選手には、ENEOS の馬瓜エブリン選手が選ばれた。
・１/12、第 101 回天皇杯全日本選手権大会は、東京・国立代々木競技場で決勝があり、前年準優勝のＡ東京が三河を 72－64 で破り 14 年ぶり３度目の優勝を果たした。
大会の最優秀選手はＡ東京のロシター選手が選ばれた。

・2/2、日本協会は、方向性の違いからトム・ホーバス前 HC との契約終了を発表。
2028 年ロサンゼルス五輪までの契約としていたが、昨年夏のアジアカップ準々決勝進出決定戦に敗れたなどで、事実上の解任とみられる。バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチに、桶谷大氏（B1琉球 HC）を後任にオファー。
２/13、千葉市内で就任会見を行い「五輪で勝てるチームを作りたい」と五輪での白星を目標に掲げた。
・2/26、男子Ｗ杯アジア１次予選が、沖縄サントリーアリーナで開催。Ｂ組の日本は中国に 80－87 で敗れた。
桶谷大 HC が初めての指揮した試合は、前半 14 点リードしたが、逆転負け。

・3/1、男子Ｗ杯アジア１次予選、Ｂ組の日本は 78－72 で韓国を破り、桶谷大 HC 率いる新生日本は就任２戦目で初白星。
・3/11、バスケットボール女子のワールドカップ予選は、イスタンブールで日本は初戦でハンガリーに 65－77 で敗れ、黒星スタート。
日本、ハンガリー、オーストラリア、トルコ、カナダ、アルゼンチンの６チーム総当たり戦。オーストラリア（既に本戦入りしている）を除き上位３チームが出場権を得る。
・3/12、女子日本代表は、世界ランキング２位のオーストラリアに 71－81 で敗れ、２連敗となった。前半は９点リードしたが、最終クオーターで逆転された。
・3/14、女子日本代表は、地元トルコと対戦、67-75 で敗れ３連敗。
・3/15、世界ランキング 11 位の女子日本代表は同７位のカナダと対戦、66－62 でカナダを破り初勝利、1 勝３敗とする。
・3/17、女子日本代表は、アルゼンチンと対戦、83－39 で勝利し２勝３敗。トルコ、カナダと並び３チーム間の直接対決の成績により４位となり、Ｗ杯の切符を獲得。
・3/22、バスケットボール男子東アジアスーパーリーグ（EASL）のプレーオフ決勝がマカオで行われ、宇都宮が桃園（台湾）に 90－81 で勝ち初優勝。
・3/28、Ｗリーグプレーオフ（２勝先勝方式）が行われ、準決勝第 1 戦では富士通がデンソーを 56－48、トヨタ自動車がトヨタ紡織を 60－52 で破り先勝した。
・3/29、Ｗリーグプレーオフ準決勝第２戦が行われ、デンソーが富士通を 56－50、トヨタ紡織がトヨタ自動車を 70－66 で破り、各々1 勝 1 敗とした。
・3/30 、Ｗリーグプレーオフ準決勝第３戦が行われ、デンソーが富士通を 59－58、トヨタ自動車がトヨタ紡織を 77－49 で破り、デンソーとトヨタ自動車が各々２勝 1 敗で決勝進出を決めた。

・4/4、先に３勝したチームが優勝となる Ｗ リーグプレーオフ決勝第 1 戦は、デンソーがトヨタ自動車を 75－66 で破り、先勝した。デンソーのエース高田が 26 得点の活躍。
・4 /5、Ｗ リーグプレーオフ決勝第２戦は、トヨタ自動車がデンソーを 57－41 で破り、両チーム 1 勝 1 敗とする。トヨタ自動車の山本が３点シュート４本を含む 22 得点をあげる。
・4/11、Ｗリーグプレーオフ決勝第３戦は、デンソーがトヨタ自動車を 69－59 で破り２勝 1 敗とし、初優勝に王手をかけた。
・4/12、Ｗ リーグプレーオフ決勝第４戦は、デンソーが トヨタ自動車を 70－51 で破り、３勝 1 敗で初のリーグ制覇。
プレーオフの最優秀選手は、デンソーの高田選手が選ばれた。
・4/22、国際バスケットボール連盟は 2030 年女子ワールドカップの開催地を日本に決定したと発表。東京で 11/26～12/8 まで開かれる。

・5/3、りそなグループ B1 レギュラーシーズンが終了。
千葉Ｊが Ａ東京に勝って東地区２位を確定。ワイルドカード 1 位の群馬と対戦する。全体 1 位の西地区優勝の長崎は Ａ東京、東地区優勝の宇都宮は名古屋Ｄ 、西地区２位三河は琉球と対戦する。
・5/8、長崎が Ａ東京を 96－56 で破り２連勝で準決勝進出を決めた。琉球は 79－65 で三河を破り先勝した。
・5/9、琉球は 82－79 で三河を破り、２連勝で準決勝進出。名古屋 D は 89－82 で宇都宮を破り、群馬は 87－68 で千葉Ｊに先勝。

・5/10、千葉Ｊが 85－79 群馬を破り 1 勝 1 敗となる。名古屋Ｄは宇都宮 75－66 で破り準決勝進出を決めた。
・5/11、千葉Ｊが 72－68 で群馬を破り、２勝で４強入りを決めた。
・5/15、年間王者を決めるチャンピオンシップ（CS）準決勝、長崎は 82－65 で千葉Ｊを破り、琉球は 85－65 で名古屋Ｄに勝利した。
・5/16、長崎が 102－93 で千葉Ｊに連勝、琉球も 90－74 で名古屋Ｄを破り連勝。
決勝は、CS 初進出の長崎と５季連続決勝進出の琉球との対決となる。
・5/16、女子日本代表国際試合、日本はラトビアに 98－73 で快勝した。
・5/23、横浜アリーナで行われたチャンピオンシップ決勝第 1 戦は、琉球が長崎を 71－69 で破った。琉球は、全員での守備と攻撃の試合を展開し、センター陣の活躍が大きく勝利に貢献した。
・5/24、チャンピオンシップ決勝第２戦は、長崎が琉球を 66－60 で破り、対戦成績を 1 勝 1 敗とした。第３戦が決定戦となる（２勝先勝方式）。長崎の堅守速攻が機能、第３クオーターを 21－9 で圧倒し主導権を奪い勝利した。
・5/26、チャンピオンシップ決勝第３戦は、長崎が 72－64 で琉球を破り、２勝 1 敗で初優勝。
長崎は前半 36－23 でリード、後半は 36－41 で琉球の猛反撃にあったが、厳しい守備で守りぬいた。
長崎はリーグ参入５季目でＢリーグ優勝、最優秀選手には、長崎のイ・ヒョンジュン選手が選ばれた。馬場選手は、攻守でチームの勝利に大きく貢献し、ファイナル賞を獲得した。
・5/29、バスケットボール男子Ｂリーグ年間表彰式が行われ、B1 レギュラーシーズンの最優秀選手に D.J.ニュービル選手（宇都宮ブレックス）が選ばれた。３季３年連続の授賞。
レギュラーシーズンベスト５には、D.J.ニュービル選手に加え、富永啓生選手（レバンガ北海道）、ジャレット・カルバー選手（仙台 89ERS）、イ・ヒョンジュン選手（長崎ヴェルカ）、スタンリー・ジョンソン選手（長崎ヴェルカ）が選ばれた。最優秀審判賞には加藤誉樹審判員が 10 季連続で選ばれた。
男子Ｂリーグの「琉球ゴールデンキングス」は、桶谷大監督が契約満了で退任すると発表した。2021 年に「琉球ゴールデンキングス」のヘッドコーチに復帰し、2022－2023 シーズンに琉球ゴールデンキングスをＢリーグ初優勝に導いた。2026 年２月男子日本代表のヘッドコーチに就任した。

以上

最近の競技規則について（その２）

小澤　正博

前号では主としてパーソナルファウルを取り上げたが、今回は「ショットクロック」と「トラベリング（ゼロステップ)」について主要点を記してみたい。

○ショットクロック

このルールが適用された当初は 30 秒ルールと云われ、ボールを保持したチームは規定された時間内(当初は 30 秒)にシュートを打ち、そのボールがリングに当たるまでショットクロックのリセットは行わないというルールであった。

現行ではショットクロックのリセットについて、24 秒と 14 秒の２種類があり、少々ややこしくなっているので今一度確認してみたい。

ショットクロックのリセットが 24 秒になってから、かなりの期間が経過し、こちらの方は誰でも周知されて理解が進んでいる模様であるので、あえて触れなくても良いと思う。

しかしながら 14 秒リセット規則が採用されてからは、その適用を巡って多様な解釈が出始めてオフィシャルの混乱を招いているようである

ただし、ショットクロックが 0 秒になったとき、ボールがオフェンスプレイヤーの手を離れていたら、ブザーが鳴ってもただちにバイオレーションにはならない。

そのボールがリングに入れば得点となり、入らなかったときディフェンス側が完全にボールを保持すればゲームは続けられる。

ここでは、どのような機会に 14 秒リセットを行うかをまとめてみる。

１．オフェンスがシュートをしてリングに当たった後、オフェンス側がボールを保持したとき。
２．フロントコートでディフェンス側のミス（ファウルやバイオレーション）でオフェンスが自チームのスローインとなり、ショットクロックが 13 秒以下のとき。
３．後半の残り時間が２分を切ったときと、延長戦でオフェンスがタイムアウトをとった後フロントコートでスローインするとき。
　ただし、残り時間が 13 秒以下だった場合、ショットクロックは継続となる。
４．ヘルドボールになった後、オルタネイトポジョンによってスローインするとき、オフェンス側のボールで再開する場合ショットクロックは継続となり、ディフェンス側のボールで再開する場合、バックコートだったら 24 秒にリセットし、フロントコートだったら 14 秒にリセットされる。

上記以外にも何らかの理由によりゲームが中断されることがある。

この場合、以下のように規則で定められているルールに従うが、実際問題としてとっさに判断することが困難なケースも出てくる。

ゲーム中断後の再開時には、審判がゲームクロックの指示をすることになっているので、その指示に従うのがよい。

1．どちらかのチームにテクニカルファウルが宣せられた場合、相手チームがフリースローを行い、ショットクロックは継続となる。
2．どちらのチームにも関係なくゲームが止められスローインで再開される場合、バックコートであれば 24 秒リセット、フロントコートで 13 秒以下の場合 14 秒にリセット、フロントコートで 14 秒以上の場合は継続となる。

〇トラベリング（ゼロステップ）

プレイヤーが進行しながらボールを保持した場合、最初に着地した足をゼロステップとする。したがって進行しながらボールを受け取った場合はゼロから２歩までステップが認められる。

例としてランニングシュートでの３ステップは、これまでトラベリングとなっていたが、ゼロステップ制により、トラベリングにはならない。

したがってプレイヤーがボールを受け取る際、進行していればゼロステップを含めて合計３歩までステップを踏むことができるので、プレイ的に考えるとボールを受け取る際にはできるだけ動きながら受けた方がオフェンス的に有利になる。

進行しながらの規則には速さに関する規定はなく、ゆっくりであっても進行していれば、最初の着地はゼロステップとなる（ミートしながらボールを受け取った場合等）。

ただし、止まった状態でボールを受け取ったり、進行せずにジャンプしながらボールを受け取った場合はゼロステップにはならず、その際の足が片足、両足に関係なく 1 歩目になるのでピボットの踏みかえなどには注意を要する。

（振興会副会長）



最近の筆者

［編集部付記］
筆者の小澤さんは 「ステキな 90 歳現役審判員」として墨田区バスケットボール協会の Facebook で紹介されています。

「神田バスケットボール資料室」探訪（１）

―資料から見る「先達の足跡」―

［歴史部］

最初に

この数年、全国の大学バスケットボール部が続々と創部 100 周年を迎え、色々な記念行事が行われていますが、そのような中、記念誌刊行のための資料探しや事実確認のために、多くの大学バスケットボール部関係者の方々に「神田バスケットボール資料室」をご利用いただいています。

そこで、これから 100 周年等の周年記念行事の実施を企画・検討されている大学バスケットボール部、クラブチームなどの関係者の皆さまにも「神田バスケットボール資料室」を進んでご利用いただけることを願い、今後、シリーズで「神田バスケットボール資料室」の保存する資料等に基づくバスケットボール界発展の歴史や変遷をご紹介していきたいと考えています。

東京都千代田区神田は「近代スポーツ発祥の地」

東京都千代田区神田は、「近代スポーツの発祥の地」であり、日本のバスケットボールの誕生・発展に因む施設がありました。

（１） 1894（明 27）年に神田・美土代町に「東京 YMCA 会館」が建設され（その後、江東区東陽町に移転したが、跡地には旧東京 YMCA 会館記念碑があります）、この地でバスケットボール・バレーボールなどの競技が日本に紹介され、多くの試合が行われました。

（２） 神田・一ッ橋「国民体育館」[1937（昭 12）年 11 月新設・室内正規コート完成]
戦前から、戦後にわたりバスケットボールの多くの試合が行われたバスケットボールコート。戦後、進駐軍に接収された一時期の名称は、「ナショナルジム」。

（３） 1941（昭 16）年に神田・駿河台に「岸記念体育会館」（大日本体育協会の所在地）
第二代岸清一会長のご遺族の寄付により建設[1964(昭 39)年に渋谷区神南に移転]

日本協会の戦後の復活（1946 年～1952 年）

（１） 1946（昭 21）年５月１日　「日本籠球協會規約」制定
「大日本體育協会」の公報に、新たな「日本籠球協會規約」が掲載されている。

（２） 1951（昭 26）年　神田「国民体育館」（ナショナルジム）返還への経緯
1945（昭 20）年９月に神宮外苑（STATESIDE PARK）を含めたすべての公共施設（体育関連）は、進駐軍（1945 年～1952 年までポツダム宣言に基づき占領・駐留したアメリカ軍を中心にした連合国軍の呼称）に接収された。進駐軍が使用しない時に限り、「六大学野球」（神宮球場）や水泳場の使用は許されていたようだが、1952 年に神宮外苑の接収が全面解除された。（1952 年４月両国メモリアルホールも接収解除）

（３） 1948（昭 23）年 11 月 30 日付けで「KEIO Basketball Team」が連合国軍最高司令官総司令部（GHQ）宛てに「Request for Use of National Gym」（国民体育館の借用願い）を送付し、体育館借用の申し入れを行っている。

その内容は次の通りである。（一部抜粋、編集部和訳）

『終戦後バスケッボールは、面白いスポーツとして復活しつつあります。しかし、野球、水泳、ラグビー、バレーボールなどと異なり十分な施設がなく、人気、実力（以前の技術）が得られていません。観客席、選手のためのベンチ、オフィシャル用のテーブルの不足、貧弱な照明などがハンディキャップとなり他のスポーツに劣っています。この素晴らしい人気のあるスポーツを復活させるためにここに唯一東京で規格を備えているコートの使用についてご理解と配慮をお願いします。ご理解いただければ、次年度４月あるいは５月インターカレッジ、早慶戦、慶応―関西大学などの定期戦などの試合を行いたい。』

（４） 1948（昭 23）年９月 15 日付けで、駐留軍の第八軍宛てに東日本学生バスケットボール連盟の八谷チェアマンは、９月 25 日から 10 月 24 日まで神田・明治大学で開催されるリーグ戦に招待する旨の手紙を送っている。

（５） 1951（昭 26）年９月 26 日（水）「國民体育館返還記念試合」

「日本バスケットボール協会」（協会名を籠球からバスケットボールに改称している）が懇願していた「国民体育館の使用」が許され、２試合の返還記念試合」が行われた。

18：00～　オリンピック第一次候補　対　全文理
　　オリンピック第一次候補　対　日本鋼管


1951
國民体育館返還記念試合
プログラム
日本バスケツトボール協會

1951 国民体育館返還記念試合
プログラム表紙

（６） 1952 年「ヘルシンキ・オリンピック」参加を想定したが、「渡航費用のための外貨が不足」、「日本バスケットボールの実力が国際的レベルであるか測ることができなかつた」などの理由でバスケットボールのオリンピック参加は実現しなかった。この段階で候補選手は、関東地域のみから選抜されていたが、その後、関西からも候補選手を選抜し一次、二次合宿を実施した経緯がある。

（７） 戦後、日本のオリンピック参加は、1956 年「メルボルン・オリンピック」まで待つことになり、この返還記念試合に参加した内３名のみが「メルボルン・オリンピック」に参加している。戦前の 1936 年「ベルリン・オリンピック」参加から 20 年を経たバスケット界念願の「オリンピック」参加であった。

（文責:渡辺誠）

会員だより

藤沢市レディースバスケットボール連盟

生涯スポーツ都市宣言（神奈川県藤沢市）
「だれでも　いつでも　どこでも　いつまでも」
バスケを楽しむ環境を整え、頑張ります！



2026/４/５　振興会大会初戦
初ユニフォーム

三角　恵美子（No.23）
佐川　恵子　（No.25）
阿部　真樹　（No.0 ）

三角　恵美子　「目指せ❣　藤沢市生涯スポーツ都市宣言」

約 35 年前から、車いすバスケットボールの試合や体験会を開きたいと願い、呼びかけを続けてきました。かつては「車いすで体育館の床が傷つき、他競技の選手がけがをするかもしれない」という理由で、市の体育館では開催が認められませんでした。

2013 年の東京オリンピック・パラリンピック開催決定をきっかけに、車いすバスケットボールの体験会や試合会場づくりに関わるようになりました。ミニバスの選手や保護者が、選手の生の声を聞き、心を動かされていく姿を目の当たりにしました。多くの気付きや反省も生まれましたが、その経験を基に、毎年大会や体験会を開き、臨場感あふれる迫力の試合を間近で見ることができています。



障害の有無や年齢、性別にかかわらず、誰もがバスケットボールを楽しめる生涯スポーツ社会をめざし、今後は車いすツインバスケット、知的障害者バスケット、デフリンピック競技にも取り組んでいきたいと考えています。

「藤沢に行けば、すべてのカテゴリーの人が同じ空間で、自分らしくバスケットを楽しめる」

そんなインクルーシブな町を思い描くと、今からわくわくします。

バスケットボールを通して、私はたくさんの「正の連鎖」を実感してきました。中でも、人と人とのつながりの大切さを強く感じています。AI は人が生み出した素晴らしい道具で

すが、人に勝るものはないと思っています。これからもスポーツを通じて、人との出会いや関わりを大切にしながら、バスケットボールを楽しんでいきたいです。

佐川　恵子　　「プレイヤーと審判員」

長い間遠ざかっていたバスケットボールに、家庭をもってから再び出会いました。
子供たちがお世話になったミニバスチーム、自身が参加したチームの何かお役に立てればと始めたことが、審判員としての活動でした。
試合に参加するためには、審判・TO は必須です。
誰かがやらなければならない！そんな思いでした。
始めたばかりの頃は、思うように笛が鳴らず悩んだこともたくさんありました。
それでも、上級審判の方に助けていただき、一試合吹き終えた達成感はなににも換えがたいものでした。
プレイヤーとして自信のなかった私は、審判員を引き受けることでチームの一員としてのポジションを確保していた気がします。
しかし、年齢を重ねると、一日の中でどちらも同じようにこなすのは大変になってきます。プレイヤーとして参加したいけれど、審判もあるし…
まして、シニア大会となれば全員の年齢が高いので、これからの課題かなと思っています。若い世代の力を借りることも一つの方法ですが、できれば自分たちでなんとかしたい。
みなさんとベストな方法を探していきたいです。

阿部　真樹　　「断捨離の日々と、増える思い出」

「いつでも、いつまでも」楽しめる生涯スポーツとして、バスケットボールは私の生活の大きな原動力です。
特に今年から始まった振興会主催のシニア大会への挑戦は、日々に新しい刺激を運んでくれました。
試合そのものの熱戦はさておき、普段は別々のチームですが、同じ世代の方々が集まり、「藤沢レディース」というチームで仲間となり、試合会場へと向かう道中は、まるで学生時代に戻ったかのような感があります。
ランチをしても健康の話、介護の話、身の回りの話しになりますが、あれやこれやと盛り上がります。試合での良いプレイや、ナイスディフェンスの時と同じくらい、とても心地の良い時間が過ぎていきます。
年齢を重ね、身の回りのモノを整理する「断捨離」を意識する年代になりましたが、コートに立つたびに、新しく楽しい思い出がどんどん増えていくのが嬉しくてたまりません。モノは減っても、バスケを通じて得る絆や充実感は、これからも心豊かにしてくれます。
怪我なく、仲間と共に長く語り合える時間を紡いでいきたいと思います。
そして後輩たちの為に、いつまでもバスケができる環境を作っていきたいと思っています。

以上

会員だより



嘘のような、本当にあった話（その15～）

元高校教諭　　須田　武志

本寄稿は、滋賀県立膳所高等学校の男女バスケットボール班を長年指導された須田武志先生によるもので、97 号（初回掲載）からの連載です。　（編集部注）

その15　秋田県立能代工業高校について　　1983（昭和58）年８月４日

女子高校に負けるような弱かった我がチームも、昨年の1982（昭和57）年８月４日に鹿児島県川内市であったインターハイに辛うじて出場することが出来た。１回戦は強豪の千葉県代表の八千代松陰高校である。60対57の３点差で辛うじて勝つことが出来た。２回戦は優勝候補の愛知県代表の名電高校であったが、こっぴどくやられた。１回戦で負ける予定（私の独断と偏見）が２回戦まで行ったので、帰りの旅費を節約するために、帰途は予定を変更した。鹿児島県の志布志港からサンフラワー号（主に修学旅行専用の船）に乗って太平洋を通って波に大きく左右上下に揺られながら、約15時間かけて大阪南港まで帰ってきたのだ。大阪南港は、私にとっては初めての土地なので、そこからの帰途の交通がわからず、戸惑った思い出がある。自分ひとりなら身軽なのだが、部員が20数名いると切符の購入や移動がスムーズにいかず、大変戸惑った思い出がある。

それから１年。今年もなんとか、誤魔化してインターハイ県予選に勝って、２年連続で、再び、インターハイに出場することが出来た。本部から送られてきた組み合わせを見ると２年前に練習試合をした能代工業高校が我がチームの組み合わせのごく近くにいる。どうせ1回戦か２回戦で負けるだろうから、能代工業高校とは対戦することはないだろうと気軽な気持ちを抱きながら、安城市まで出かけた。

１回戦　　1983（昭和58）年８月２日　於　安城高校体育館

膳　所 71 $(\frac{33-38}{38-22})$ 60　長野吉田（長　野）

２回戦　　1983（昭和58）年８月３日　於　安城高校体育館

膳　所 60 $(\frac{35-30}{25-20})$ 50　広島皆実（広　島）

２回戦の相手は中国地区ナンバー1である広島皆実高校。とても強いチームなので、今までに経験したことのない、また、試合や練習試合でも使ったことのない戦法で戦ってみようと

考えた。我がチームには２人のPG（３年吉浪壽晃と２年矢野圭昭）がいる。この２人は甲乙つけ難い力を持っている。試合では、審判の笛が鳴る度に２人のPGを終始、交互に交代させながら、自分たちのオフェンスを度外視して、相手のPGにスッポンのように密着して封じる作戦を取った。この戦法は全く練習もしていないので、うまくいかいことは百も承知であったが、「負け元」で戦ってみることにした。相手のPGにボールを持たせない、ボールを運ばせないという戦法である。一般的には、高校生はPGがボールを運んできてセットオフェンスを組んで攻撃するパターンが多い。そこで、PGにボールを持たせない、ボールを運ばせない。PG以外の選手にボールを運ばせて、オフェンスのリズムを狂わせようという戦法である。これが功を奏して、相手はかなり苦しんだ。結局、最終10点差で中国地区１位の広島皆実に勝つことが出来た。

（このときのPG ３年吉浪壽晃については、後述）

３回戦　　1983（昭和58）年８月４日　　於　安城市立体育館

膳　所 37 $(\frac{19-54}{18-35})$ 89 能代工業（秋　田）

夢のようなチーム、常勝、能代工業高校と、まさかインターハイという公式の場で対戦するとは夢にも想像しなかった。私の一生涯、対戦することはないであろうと思っていた能代工業高校。その能代工業高校は国内では無敵のチームである。過去も現在も、１回戦から決勝戦まで、全て100点ゲームで勝ってきているチームである。そのようなチームと対職するのである。試合に勝つことよりも如何にして恥ずかしくない内容の試合をするかに重きを置いた。100点どころか200点入れられるかもしれない。そんなことだったら、１回戦か２回戦で負けておいた方がよかったかもしれない。

とにかく、相手はとことん走って走って走って、走りまくるチームだから、こちらの取った戦法は、「真逆」の戦法。決して「走らない」・「ショットしない」という戦法を取った。運動能力なし、体力なし、身長にも恵まれない、リクルートが全く出来ない等の最悪のチームの拠りどころとしては、この戦法がベストではないにしてもベターであることには間違いない。この戦法を用いると特に速攻のチームや強いチーム程、我々のペースに実に気持ちよく、また、面白いように嵌ってくれることが多い。完全にこちらのペースで試合が出来ることが多い。但し、弱いチームと対戦するときには、この戦法はあまり効果がない。

全国のどこのチームも取らないこの戦法を使ったので、試合が始まって６分間は完全にこちらのペースで試合は進行した。最初、何故か能代工業高校は下がって２−３ゾーンデイフェンスを敷いてきた。こちらの戦法がよく効いて、しばらくの間は試合に勝っていた。試合が始まって６分後に能代工業高校の加藤先生が先にタイムアウトを請求した。能代工業高校が先にタイムアウトを要求したのである。このとき、得点は８対６でこちらが２点リード。我がチームは40分間の最初の６分間だけは「日本一、日本一」であった。相手が先にタイムアウトを取ったので、次に相手の取るであろうディフェンスの作戦はわかっていた。そのことについて選手にくどいほど注意した。「このあと能代工業高校は、必ず、フルコートのゾーンプレスディフェンスで前から仕掛けてくる。ボール運びの途中で、くれぐれもターンオーバーだけはしないよう注意すること。そして、最後はショットで終わるように」と厳しく注意した。タイムアウトが終了した。選手に話した通り、能代工業高校はフルコートのゾーンプレスディフェンスで前から激しく当たってきた。体格の良い相手の強い圧力で視野が狭くなり、ターンオーバー続出。あっという間に逆転されてしまった。前半、19対54で終了。前

半のターンオーバーは14本であった。このままでいくと100点ゲームをされる恐れがある。100点ゲームだけはなんとか避けたい気持ちでいっぱいであった。

後半も前半同様、ターンオーバー続出。後半は18対35のダブルスコアの得点差であった。前半同様、ターンオーバーは14本。前半後半合わせて28本のターンオーバーである。ただ、100点入れられなかったことだけが救いであった。他のチームは悉く100点取られている。

$$\text{ターンオーバー（ミス率）} = \frac{28}{85} = 32.9\%$$

さすがに能代工業高校にはこの戦法は通用しなかった。

ただ、１試合を通して100点入れられなかったことだけがせめてもの救いであった。

○　３年ポイントガード吉浪壽晃について

高校時代に体育会系のバスケットボール部に所属していながら、勉強とバスケットボールの二つを両立させるだけでも大変なのに、彼は3年間、勉強とバスケットボールと文化系の『能楽』の三つを実にうまく『三立』させた部員であった。三立という言葉があるのかどうかは知らないが…。本当に立派である。彼はこの三つを実にうまく三立させた。

彼は、京都の中学から本校のバスケットボール部に入部してきた頃は、背が低く（167㎝）体力もなく、肥り気味であった。ショットを打たせてもリングにも届かない。どうせ途中で辞めるだろうと多くを期待していなかったが、ただただ、真面目であった。その真面目という言葉の上に、更に『くそ』がつく程、『くそ真面目』であった。ただ、余りにも体力がなかったので、一年生の夏休みに入った初日から練習が終わったあと、毎日、膳所高校から琵琶湖を渡って対岸の近江大橋の料金徴収所（現在はない）までの往復（約３㎞あまり）を走るようにといった。

初日のことである。学校を出たまま、いっこうに戻ってこない。炎天下のこと、行き倒れにでもなってはいないだろうかと心配になり、マネージャーの大賀敬之に「吉浪が途中で遭難しているかもしれないから、見に行ってきてくれ」といって、水筒を持たせて、学校の自転車で見に行かせた。大賀が帰ってきて連絡してきた。「途中で疲れ果てて、炎天下、橋の上で座り込んでいました」と。僅か約３㎞あまりを走り切れない彼を見て苦々しく思った。しかし、彼の真面目さと努力の甲斐があって、２年生になると副主将に選ばれ、プレー面では立派にポイントガードをこなすまでになった。卒業後、東京芸術大学（音）に見事合格。現在、能楽師として全国で活躍している。



吉浪壽晃
（写真は筆者提供）

○　ポイントゲッター五月女隆男

この試合で、チームの得点37点中、半分近くの17点を取ったポイントゲッター五月女隆男は、１年生の時に、明日から夏休みが始まるという直前の７月20日、終業式が終った直後に、他の同級生の部員に連れられて職員室にやってきた。彼は「今日からバスケットボール部に入りたい」と言いに来た。彼の存在はチームメートから、いろいろ聞いていたが特に声を掛けることもなかった。今頃になって、何故バスケットボール部に入りたいと言ってきたのかはわからない。あまり期待もせず、［来るものは拒まず］で、部員は少ないよりも多い方がよいだけの考えで、入部を承諾した。卒業後、彼は地元の滋賀医科大学に進学して医師の道

に進んだ。そして、現在は近江八幡市にあるヴォーリス記念病院の院長（内科医）として勤務している。

○　ほかに卒業後、工学博士号取得者 1名

その16　新入部員いろいろ

○　新入生のリクルート

入学式で担任から呼名されて起立する新入生を横から見ながら、身長の高い生徒をチェック。後日、部員に勧誘に行かせる。これが私の唯一のリクルートである。４月に入ると新入生が入学し、かつ入部してくる。色が白く、まるでモヤシのように線の細い生徒が多い。(註。以前は中学校から送られてくる調査書に身長の記入欄があったが、現在は廃止になっているため、新入生の身長の記入がない)

高校野球などで甲子園に出場するとその学校の受験生が増えるし、野球部の部員も一挙に増加するというのが一般的な現象である。しかし、私が教えているバスケットボールチームには、こういった現象は全く起こらない。例外の年はあっても、こういうような現象が殆ど起きないから不思議である。私の教えているチームは、強い時（インターハイに出場するときなど）ほど入部してくる部員が少ない。バスケットボール部は強いので、練習が厳しい。そのため、十分に勉強が出来ないと妙な噂が飛び交って入部してこない。逆に弱いときは練習がラクなのか、ラクそうに思えるのか、入部してくる新入生が不思議と多い。

３年間、部活動を止めずに最後まで残った部員よりも途中で退部していった部員の数の方がはるかに多い。このことに心残りがして、いつまでも淋しい思いがする。

途中でやめていった部員の中には、意外と上手い選手が多い。最後まで辞めずに残った部員の多くは、正直言ってあまりうまいとは思えない部員や高校に入学してからバスケットボール部に入ってくる初心者たちであった。

私の指導は、中学からの経験者も素人も全く基礎基本を重視したやり方で指導をしているので、経験者や比較的うまい部員にとっては、練習が物足りなくて、また、歯痒くて仕方がないのかもしれない。

新入生が入部してくるときに様々な注意事項を話すが、その中で、「バスケットボール部を引退するまでは、絶対に塾通いだけは禁止」ということだけは強く伝えている。
（私は今でも塾と予備校の違いがよくわからない）

○　練習用具持参で高校入試の合格発表を見にきた中学生　1986（昭和61）年４月入学

定員500人で、毎年100～200人近くが不合格となる高校入試の合格発表の日の朝にバスケットボールの練習用具持参で合格発表を見にきた中学生がいた。こういう中学生は過去にも将来にわたっても彼ひとりだけであった。そして、その日から高校生に交じって練習に加わるという豪傑ぶりである。北原崇である。彼の第一声は「ボクは膳所高校にバスケットボールをするために入学しました」といって憚らない大物であった。それだけでも変わり者なのに、高校入試合格発表直後にある第一回新入生召集日には、風邪を引いたことを理由にして、新入生の召集を母親に代理出席を依頼。本人は上級生と一緒にその日から、全関西高校バスケットボール大会（広島）に参加してきたから叶わない。生徒も生徒、母親も母親、いや、も

っと変わり者は顧問である、この私かもしれない。知って知らぬフリを決め込んで広島へと出かけた。

彼は、立命館大学（経）に進学。

彼の話によると、学生時代にトイレに行ったときに、たまたま、吉本興業の社長と顔が会ったという。トイレで立ち話をしているうちに吉本興業の社長が彼を気に入って「うちの会社に来ないか」という話になって、吉本興業に就職が決まったという。さすが吉本興業の社長である。人間を見る眼を持っている。

相在、彼は吉本興業に就職。以前『宮川大助・花子』のマネージャーとして、現在は『中川家』のマネージャーとして活躍している。

その17　第18回全国高校選抜優勝大会近畿地区予選　1988（昭和63）年２月20～21日

全国高校選抜優勝大会の会場が東京を離れて、ユニバー杯記念大会として初めて神戸で開催されることになった。その後、開催地が東京を離れたのは、第43回の2013（平成25）年の広島大会のみで、あとは全て東京開催である。

全国高校選抜優勝大会が近畿地区で開催されるという理由で、地元兵庫県が＋1、それに加えて近畿地区からも＋1の出場枠が増えることになった。近畿地区からは、３＋１＝４で、遠ざかっていた全国高校選抜優勝大会の出場にも少なからず、チャンスが見えてきた。

近畿地区での予選は、第１回から今回（第18回）まで各府県１チームのみの参加である。京阪神の指導者からは、各府県から２チームの出場枠（合計６×２=12チーム）にしてほしいという強い要望が何回も出ているが、洛南高校の南波道雄先生（元国際公認審判員）が頑として首を縦に振らない。おかげで、こちらとしては大会に出場するチャンスが多く出てくる。

今回も６府県を二つのリーグに分けて例年通りのやり方で大会が始まった。

我がチームは、向陽・洛南・膳所のゾーンである。一つ勝てば全国高校選抜優勝大会に出場出来る。初日の和歌山の向陽高校に勝つことを最大の目標にと考えた。試合会場となる体育館の雰囲気になれるために、２週間前の土曜日の午後に京都府立山城総合運動公園体育館（京都府宇治市）を借りて２時間程練習した。

予選リーグ戦２回戦　○　膳　所　76（$\frac{37-42}{39-32}$）74　×　向　陽（和歌山）

何がなんでも、この試合に勝たないとあとがないという過剰な意識が働き過ぎて、それが部員に強いプレッシャーとなった。そのため、選手全員の心身がコチコチ状態。普段のプレーの半分も出せていない状態であった。しかし、何故か不思議と前半だけで37点もの大量の点数を獲得している。チームとして、オフェンスは最高の出来であったが、逆に相手に42点も入れられたことは想定外の点数であった。

前半５点リードされて後半に入った。後半残り６分のところで、61対69と８点も大きくリードされた。もう、これは完全に負けてしまうと思う程、選手の体が竦んでしまっていた。そして、更に悪いことに、この試合で27点を稼いでいたポイントグッターの木村修二がこのとき５つ目のファールを取られた。マネージャーの付けているスコアブックにも５つ目のファールとなっている。ところがオフィシャルテーブルの個人ファールの札は４つ目のファールを掲げていた。

スコアブックは鉛筆で書いているので、気を利かしたマネージャーがわからないように急いで木村修二の反則の数をうまく書き直して４つ目のファールに訂正した。鉛筆で記入しているから消しゴムで簡単に修正出来る。相手チームからクレームが出たが、２対１の多数決でファールの数は４反則で収まった。彼はポイントゲッターである。彼が５反則で退場してしまっていたら、この試合は負けである。完全に負けた試合であったが、マネージャーの臨機応変の働きによって、彼は辛うじて、続けて試合に出ることが出来た。彼はその後も大活躍して２点差で逃げ切ることが出来た。負けていた試合で、マネージャーの気転よろしく逆転勝ちすることが出来た。今後に向けて非常によい勉強になった。

今となっては昔の話なので時効ものであるがヒヤヒヤの勝利であった。わずか２点の差で辛勝。この２点は重たい。これで神戸での全国高校選抜優勝大会に５度目の出場が決まった。

予選リーグ戦　２回戦　　×　膳　所　34　-　91　○　洛　南（京　都）
決勝リーグ　　１回戦　　×　膳　所　67　-　72　○　育　英（兵　庫）
決勝リーグ　　２回戦　　×　膳　所　45　-　83　○　初　芝（大　阪）
１勝３敗

その18　全国高校選抜優勝大会　　神戸ワールド記念ホール1988（昭和63）年３月26日

○　初めて、バスケットボールの試合（の応援？見物？）に来た母

私の両親は明治の生まれである。私が命を懸けて指導しているバスケットボールなんかに全く興味もないし、関心もない。おまけに今までに試合などに一度も見にきた験しがない。父親なんかはサッカーとラグビーの区別さえつかない。そういうこともあって、神戸のワールド記念ホールで開催される第18回全国高校選抜優勝大会に、一度でよいから見にきてはどうかということで両親に声をかけた。父親は来なかったが、母親と妻と２人の子どもの４人を初めて神戸に招待することになった。JR大津駅から会場のポートアイランドのある三宮駅までは直通で、59分で行ける。

明治生まれの母は電車に乗って遠くに出かけることが殆どなかったので、お祭り気分で神戸までやってきた。神戸に行く前に近所の人に「これから神戸にバレーの試合を見に行ってくる」といって家を出てきたようである。未だにバスケットとバレーの区別がつかないでいる母。そういえば30歳になっても結婚していなかった私に「タケシ、オマエ、いつまでもバレーなんかやってないで、早く嫁さんをもらえよ」とよく言ってたっけ。

母が最初にして最後であるバスケットボールの試合の応援にきてくれた第18回全国高校選抜優勝大会。近畿地区４位の成績で14年振りに出場を果たすことが出来たが１回戦で惨敗に終わった。

第18回全国高校選抜優勝大会　1988（昭和63）年３月26日於神戸ワールド記念ホール
一回戦　　膳　所　×　32-69　○　東海工（愛　知）

その19　インターハイ予選で緒戦（１回戦）敗退……　　1988（昭和63）年６月５日

インターハイ予選には、毎年、勝っても負けても数々の思い出やドラマがある。今年の３月に神戸で行われた第18回全国高校選抜優勝大会に近畿の代表として出場（近畿から４校出場）した実績を持っていたにもかかわらず、６月のインターハイ予選では緒戦（１回戦）で敗退。

この年のインターハイ予選は、５月の春季高体連でベスト８に残った８チームを半分に分けて、４チームによる予選リーグで実施。そして、予選リーグで勝ち進んだ上位２チームの計４チームで、再び、決勝リーグを行うという方式で実施された。

６月には、多くの部で、インターハイ予選があることが最初からわかっているのに、わざわざインターハイ予選（６月５・11・12日）の最中に２年生の修学旅行（６月３から７日の５日間）や１・３年生の中間試験を計画するという。生徒たちの３年間の努力をなんとも考えない。これはどういうことだろうか。生徒がインターハイに出場することに命懸けで頑張っているということが全く理解されていない。本当に困った学校である。私を含めて部員はどうするべきであろうか。

２年生が修学旅行に行っているときに、１・３年生の中間試験（６月３～７日）が入ってくる。２年生は修学旅行の出発前に中間試験（５月27～６月１日）が実施される。中間試験の１週間前からは部活動は停止である。この期間は１・３年生だけでの練習となる、大切なインターハイ予選の前に１か月近く合同練習が出来ないというのは悲劇である。これで試合に負けたら３年生にとっては泣くに泣けない事態になる。

それで、私は２年生を集めて、修学旅行について、その参加の有無についてどうするかを考えさせた。数日たって、２年生全員が私のところに来た。「２年生全員、修学旅行に参加しないことに決めました」と言ってきた。今まで部員には一言も言わずに黙っていたことをこのとき、私は初めて部員に話した。「実はなァ、オレ自身も、高校２年生のときに修学旅行には参加しなかったンヤ」ということを話した。家が豊かでなかったこともあって、私はこの修学旅行での費用を東京の大学の受験料、交通費、宿泊費等に使おうと思っていた。両親は私が大学に進学すること自体に反対であった。大学受験の条件として、もし不合格ならば『就職』をという大変厳しい条件を付けられた。まさしく＜背水の陣＞であった。

この年のインターハイ予選は、２年生の修学旅行と日程が重なると同時に１・３年生の中間試験とも日程が重なった。２年生は修学旅行には参加せず、インターハイ予選に集中することが出来た。

Aグループ

	膳　所	安曇川	甲西	八幡工
膳　所		○	○	×
安曇川	×		×	×
甲　西	×	○		○
八幡工	○	○	○	

１位 八幡工・２位 膳　所

Bグループ

	比叡山	彦根東	石　山	八　幡
比叡山		○	○	×
彦根東	×		×	×
石　山	×	○		×
八　幡	○	○	○	

１位 八幡・２位 比叡山

Aグループでの緒戦は八幡工である。中間考査と重なり、体力なし、元気なし、練習不足等がたたって、試合の結果は、

膳　所　×　56　対　61　○ 八幡工

まさかの緒戦敗退。これでインターハイの出場は100%なくなってしまった。万事休すである。折角、２年生は修学旅行に参加せずにインターハイ予選に集中することに決定したというのに。それに、この年は、NHK総合TVで男子決勝戦を実況ナマ放映されることになっていたというのに……。

決勝リーグ

	膳　所	比叡山	八　幡	八幡工	
膳　所		○	？？	×	1勝1敗
比叡山	×		○	？？	1勝1敗
八　幡	？？	○		×	1勝1敗
八幡工	○	？？	×		1勝1敗

決勝リーグは４チームが１勝１敗で並んだ。予選リーグで対戦したチームは決勝リーグでは試合しない。１勝１敗で迎えた最終日。膳所対八幡の試合が先に行われ、膳所が勝利して２勝１敗となった。最後に１勝１敗の比叡山と八幡工の試合が行われる。この試合の結果で４チームの順位が決まる。八幡工は、この試合に頑張って勝てば優勝、つまりインターハイ出場が決まる。一方、比叡山は、たとえ八幡工に頑張って勝っても優勝はおろかインターハイには出場出来ない。比叡山が勝った場合、比叡山の優勝ではなく【膳所の優勝】となる。膳所が優勝するかどうかが決まる恐ろしい試合となった。自分の力ではどうしようもない試合である。ことは大変複雑である。

八幡工とすれば、この試合に勝ってインターハイ出場を決めたい。当然のことながら、試合に熱が入ってくる。一方、比叡山の方は、たとえ、この試合に勝ってもインターハイに出場出来る望みは100％ない。インターハイに出場出来ないから、当然、闘志は半減する。試合する前から結果は自ずとわかっている。試合を見ていても面白くない。私はコートの外で、この試合の成り行きを見る以外になす術はない。

20分ハーフで試合開始　八幡工　0　対　0　比叡山

NHKTVの放映と同時に決勝戦が始まった。試合が始まって、しばらくすると八幡工がリード。勝つ気の強い八幡工が終始リード。この様子を見て、私は『もう勝負があった』と思って、さあ、帰ろうかなと思っていたら、私に付いているNHKのディレクターが私のところに駆け寄ってきて、「帰らないでほしい」といってきた。

前半終了　　八幡工 23 対 20 比叡山

ディレクターが「試合というのは、最後まで、どう転ぶかわからないものですねェ」と私に皮肉たっぷりに言ってきた。暗に比叡山が勝って、膳所が優勝するような口振りであった。もう駄目だろうと思って体育館に戻るといつのまにか比叡山が再び追い付いていて、同点となっていた。延長戦である。

後半終了　　八幡工 51 対 51 比叡山

後半の最後にリードしていた八幡工が最後に追いつかれて延長戦にもつれ込んだ。高校生というのは純粋である。自分たちが試合に勝ってインターハイに行けないことがわかってい

ても一所懸命に試合を戦う。本当に立派である。
　延長戦が始まった。今回も、再び、八幡工がリードするという試合展開となった。残り１分43秒で八幡工が62点、比叡山が58点。４点差。残り時間から考えて、追いつくことは無理だろうと思った。ところがどうしたことか、比叡山が追いつき、再び同点となった。
　　延長戦１回目終了　　八幡工 63 対 63 比叡山
　２分間の休憩のあと５分間の延長戦に入った。延長戦２回目開始。
　５分間の再延長戦に入ってからも、終始、八幡工がリードする局面が多かった。しかし、なかなか勝負が決まらない。そのとき、ひょっとしたら、この世に『勝利の女神』という実在の知れない人物がいて、八幡工を勝たせるのがよいのか、それとも比叡山を勝たせて膳所に優勝をもたらせた方がよいのかを話し合っているのではないか。なかなか結論が出ないので、何回も延長戦をさせて話し合いの時間を長引かせているのではないかと思うようになった。膳所高校のバスケットボール部の部員は、普段から真面目にコツコツと練習に取り組んでいるので、必ず、『勝利の女神』は微笑んでくれると信じ、私は、『勝利の女神の微笑み』に多くを期待した。そして試合は終わった。
　　試合終了　　八幡工 68　対　74 比叡山

　膳所高校バスケットボール部に『勝利の女神』が微笑んでくれた。比叡山が勝ち、膳所の優勝が決まった。そして、同時に私は勝利のインタビューを受けることになった。先程のディレクターが勝利のインタビューでは、「『他力本願』という言葉は絶対に使わないでほしい（註、他力本願という言葉は、仏教用語であるから）」と釘を刺された。「それでは、どういう言葉を使えばよろしいか？」と尋ねたら、「棚からボタモチとでもいって下さい」ということであった。再延長戦になってからもＴＶ放映は続行され、最後まで放映が続けられた。私の勝利インタビューもそのまま実況中継された。
　その日、たまたま、活躍した部員の父親が試合会場に応援に来ていた。普段、部員の親が試合を見にくることは殆どない。インターハイ予選の閉会式の最中に、先程の父親が私のところに来て一言いった。父親は私になんといったか？「先生、これで、ウチの息子の浪人は確実ですなァ！」、彼は大阪市立大学（現、大阪公立大学）に現役合格。私は、長年、こういう高校でバスケットボールを教えてきた。６月に予選に負けるのと８月のインターハイに出場してバスケットボール生活を終わるのとでは、大学入試に取り組む期間は２か月という大きな差が出来る。部員の父親は早く試合に負けて、受験勉強する期間を長く持ってほしいと願っているのだろう。ならば、今日、試合の応援に来なければよかったのに。
　５年振り19回目のインターハイ出場決定
　　やはり、勝利の女神はいた！　本当にいた！！
復命書に
　　［外敵（試合相手）これ粉砕するは易し
　　されど内敵（学校行事等）これ粉砕するは難し］
と書いてやった。

〈つづく〉

しばらく続きます

事務局だより

［事務局］

◇ 年会費納入のお願い

振興会は会員の皆さまの会費によって運営されています。今年度（令和8年度）も第1四半期が過ぎました。会費納入につきご理解ご協力をお願い申し上げます。

＜年会費＞

男性会員：1 万円、 女性会員：5千円　　（法人会員：5万円）

（月刊バスケットボール購読の方は、上記金額プラス4千円）

＜納入方法＞

下記銀行口座へのお振込みをお願いします。本号（104 号）と同封された郵便局の「払込取扱票」（青色・金額未記入）をご利用いただくこともできます。

〇ゆうちょ銀行　００１００－３－３１６０３５　ＮＰＯ法人日本バスケットボール振興会

※他の金融機関からゆうちょ銀行に振り込む場合は以下の内容を指定してください。

【店名】〇一九（ゼロイチキュウ）【店番】０１９【預金種目】当座【口座番号】０３１６０３９

〇三菱ＵＦＪ銀行　神保町支店　　普通預金口座　１６８４７４３

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

〇みずほ銀行　　丸の内中央支店　普通預金口座　１００４６８７

特定非営利活動法人日本バスケットボール振興会

◇ 振興会のホームページをリニューアル

タイムリーな情報提供、内容の充実に努めてまいりますので、積極的な閲覧をお願いいたします。

振興会ホームページ URL ： http://jbbs. jp

右のQRコードからもアクセスできます。

振興会 HP

◇ 新入会員（含む法人会員）ご紹介のお願い

振興会では現在、会員数の増加に力を入れています。是非とも会員の皆さまからの個人会員、法人会員のご紹介をお願い申し上げます。

入会方法は、ホームページ右上の「会員募集中」のボタンをクリックしていただくと確認することができますし、ご確認いただいた後、ホームページ画面上の「入会申し込みページ」から直接、入会申し込みをすることができます。

（入会手続きのご説明等が必要な場合は事務局で対応させていただきますので、事務局宛に直接、メールまたはお電話で、「入会希望者名、連絡先（メールアドレス、電話番号）」をご連絡いただく方法でも構いません。）

以上

プラザ　こぼればなし

◇アメリカの中学・高校の部活動は、シーズン制で秋、冬、春の学期ごとに異なるスポーツに参加できる。本来であれば、子供には可能な限りいろいろなスポーツに親しみ、たくさんのスキルを学ぶことも必要と考えられる。反面、早期に一つの競技に集中することで専門性を高め競技力を向上し、いい大学に進み奨学金を得ようとする動きがある。保護者は、子供が一番伸びそうな種目を早く見定め、集中してプレーさせて可能性を高めようとする。日本の学校の部活動とは異なる。

◇日本スポーツ振興センターは、４月にスポーツ振興くじの新たな助成事業として公立中学校の助成事業として 2026 年度から、公立中学の運動部活動の地域移行で各市町村を支援することを決めた。人口 5000 人未満の自治体を対象に定額 50 万円を支給する。27 年度から全市町村に広げる。部活動の外部委託を支援する動きと考えられる。国民一人ひとりのウェルビーイング（心身とも健康な状態）の実現を目指しているスポーツ基本法の観点から高齢者スポーツの振興にも何らかの施策が必要と考える。

◇笹川スポーツ財団の「子ども・青少年のスポーツライフ・データ 2025」によると 12～21 歳のスポーツクラブ・運動部加入率は、2025 年は 41％になり、過去最低となった。特に中学の男子の運動部への加入率は 55.6％と大きく下がった。少子化によりチームが組めず、廃部や統合が進んでいることや、体を動かす遊びをしなくなり加入率が低下している。普段の生活の中で子供たちが、グループで身体を動かすなどが楽しいと知ることなどが運動部の加入につながるのではないか。

◇5/6 朝日新聞の朝刊社会面に、「B.LEAGUE、10周年。あなたの想いを聞かせてください。」バスケットファンに意見を求める記事を掲載。5/23.［B.LEAGUE は叶え続ける。あなたの声が、ある」と全面に応募しかくされた意見を掲載。その内容を見ると、「B.LEAGUE」が確実に社会文化としてバスケットボールファンに根付いている想いが多く寄せられている。

◇当会の小澤副会長が、墨田区バスケットボール協会のFacebookに「ステキな90歳現役審判員のご紹介です」として写真付きで紹介されています。

◇一般財団法人「球心会」（代表 CEO 王貞治氏）は、野球の普及・振興のなどを目的に各種野球団体の垣根を越えて活動を行う。昨年 12 月に「球心会」主催の「野球界の未来会議」を開催し子供たちに向けて取り込むべき課題や展望になどについて話し合われた。数多くある野球の統括団体の連絡を密にして情報を発信していくなども課題にあげた。

以上

NPO法人日本バスケットボール振興会

〒101―0051
東京都千代田区神田神保町2－20
新協ビル 304 号室
電話／FAX（03）5276－5801
メール contact@jbbs.jp
HP http://jbbs.jp

振興会 HP